

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970102521		
法人名	社団医療法人 依田会		
事業所名	グループホーム さくらがおか		
所在地	栃木県 宇都宮市 桜2-3-3 電話:028-623-6899		
自己評価作成日	令和 2年11月10日	評価結果市町村受理日	令和 2年12月21日

※事業所の基本情報は

基本情報	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク栃木福祉調査センター		
所在地	栃木県 宇都宮市 大和 2-12-27 小牧ビル		
訪問調査日	令和 2年11月 25日	評価確定(合意)日	令和 2年12月 7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営母体が医療機関であり、往診・訪問看護のサービスが迅速に行え、利用者や家族にとって安心できる利点がある。また希望で個別の外支援助を行ったり、毎月様々な外出や、室内でのバイキング・お好みランチ等の食への楽しみの機会を数多く実施している。利用者全員が常に顔を合わせ楽しむ行事が多く、全員が家族であるという考え方を作るよう日々励んでいる。運営推進会議では、メンバーに地域の代表者・家族・利用者も参加しており、会議の場での発言や要望をケアに反映させている。地域の行事、公園掃除・文化祭・消防訓練・輪投げ大会にも継続して参加している。近隣の小学校や幼稚園との交流もある。小学生に対しては認知症についての理解を深める為の学習の時間を持った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年開設で4階建て3ユニットの事業所です。「ふれあい」「対話」「やさしさ」を基本に家族同様に接する事を理念に掲げ、共有と実践に取り組んでおり、家族からは家族と同様に接してくれて嬉しい、利用者の笑顔が多くみられるなど感謝の声が聞かれる。隣接の同法人クリニックでの健診(職員同行)や看護師の訪問健康観察、協力医による訪問歯科も受診出来るなどは本人、家族の安心につながっている。本人、家族に寄り添った支援で最近では3名の看取り(老衰)を行っている。コロナ禍にあつて、外出や外部との交流が出来なくなり、利用者の欲求不満やストレス解消に職員の提案で行事や食事に力を入れており、各フロアで工夫を凝らし、おやつ作りの頻度を多くして利用者が出来る事を行う自己実現の機会を増やしたり、季節を感じるフラワーアレンジメントなどの実施は多くの利用者からも好評を得ている。更に食事内容も充実させ盛り付けや彩りにも工夫を凝らしたり、外食に代え宅配ピザやテイクアウトの寿司などを取ったり、屋上庭園での外気浴を兼ねた手作りランチで気分転換を図るなどで食に楽しみと変化を付けている。今後も地域の医療と介護の連携拠点としての活躍が期待される事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) (3階ユニット) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の事務所に「運営理念」を掲げている。又、夕礼でも反省会をし、理念を共有する時間を設けている。	理念に「ふれあい」「対話」「やさしさ」と家族同様に接するを掲げ日常の業務を通して方向性の確認、共有と3ユニット間の連携強化に努めている。OJTでレベルアップを図ると共にフロアごとの夕礼時には一日の行動を振り返り、気づきを話し合っ確認をし支援の質向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会による月一回の公園掃除に職員が参加し地域との交流が図れている。	地区文化祭へ利用者の作品を出品し、展示会場に行った際などには地域の人と挨拶を交わしている。近所の公園の清掃に参加したり、毎年継続している近所の幼稚園児との交流は利用者の楽しみになっている。マジック、ダンス、傾聴などのボランティアも受け入れている。コロナ禍で殆どの交流は自粛しているが、公園の清掃には職員が継続参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の幼稚園や小学生などとの交流があり、認知症への理解をしてもらっている。しかし、コロナ禍で途絶えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催時は利用者も数名参加している。今後の課題などを意見交換している。	利用者、家族、自治会長、地域包括(清住、さくら西)職員の参加で定期開催している。利用状況や行事報告などの後、意見提言が得られている。各委員より看取りの実態についての質問や事業所の備品修理の申し入れ、行事へのアドバイスなどに加え地域の高齢者情報が得られる双方向の会議となっている。コロナ禍で5月以降電話での状況報告や資料はファクスにて送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	変更時は市役所に提出に行っている。	報告や届け出などで役所へ出向いた際には、関係部署にも顔を出して情報収集に努めており、事業所内の事故報告書の様式についてアドバイスを得ての改善事例もある。地域包括支援センター職員からは地域の高齢者情報を得たり、小学生向け認知症サポーター養成講座の進め方についてアドバイスを得るなど、いずれとも協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員に身体拘束について説明しており、全員で守っている。現在、玄関は、開錠しているが、ご家族のご理解のもと、一時的にフロアのエレベーターは施錠している。	転倒や職員が気づかぬ間にエレベーターを使用し一階まで下りたなどの事例があり、入浴の時間帯や来客時などは特に注意して、職員間の連携を再確認し寄り添い見守りの徹底で拘束のない再発防止に努めている。3ヶ月毎にリスクマネジメント委員会を開催し、転倒、怪我、離脱などを取り上げ、経過確認と対策の効果を再確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	場合により、職員2名体制で行うなど、虐待の無い職場にしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の利用が無く、理解が不十分である。今後学ぶ機会が必要だと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、管理者が家族に対して納得して頂くまで丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご意見・ご要望は、都度話し合い、可能な限り対応をしている。	運営推進会議に出席の利用者からは「歌を歌いたい、お餅を搗きたい」などの要望が聞かれ、行事などで取り入れている。家族からはリハビリのような運動支援や体調管理についての要望が殆どであり、職員間で共有を図り対応している。毎月の「さくらだより」には写真入りで暮らし振りや行事、職員の異動、運営推進会議開催案内なども掲載し意見が出やすいように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見・提案は都度話し合い、出来る事は速やかに改善を行っている。	フロアカンファレンスの他、管理者との日常会話の中でも意見、提案を聴くようにしている。コロナ禍で外出や外部との交流が出来なくなり、利用者の欲求不満やストレス解消に職員の提案で行事に力を入れている。各フロアで工夫を凝らし、おやつ作りの頻度を多くして利用者ができる事を行う自己実現の機会を増やしたり、季節を感じるフラワーアレンジメントなどの実施は多くの利用者からも好評を得ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人に合った技術指導を行い、やりがいが持てるケアに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルに合ったグループ内研修に参加している。コロナ禍で、回数は減っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加するなどサービスの質の向上に努めている。コロナ禍で現在は参加を見合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と接していく中で、不安や要望を感じ取り、より良い環境を作るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から不安や要望を聞き取り、解決策を話し合う事で信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族からの聞き取りの中から、優先順位を見極めケアを作っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事をお手伝いして頂きながら、家族同様の生活をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、面会や電話にて、大切な時間を過ごして頂いている。又、近況報告も行い、共有化している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室や外食などご家族の協力のもと出掛けている。今は、コロナ禍で中断している。	自宅近くの友人が偶に訪ねて来ることもあり、その際にはお茶をだして、職員が間に入って話をつないだり、一緒に写真を撮り、後日送るなどして再来訪をお願いしている。家族来訪時には一緒に馴染みの美容室や外食に出かける利用者もいる。自宅を見に行くだけで安心する外出志向の利用者には職員が同行支援をすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士で居室や食堂で談話できている。また、1人にならないよう、声掛けを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も他施設へ行き、本人やご家族と会う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの希望は、聞き取ったり表情より察し、出来る範囲で叶えている。	話す事は出来るが自分の思いを言葉で伝えられない利用者が大半で、理念の実践として日頃より「ふれあい」「対話」の中から、本人は何を求めているのかを意識して傾聴に努めており、可能な限り応えている。繰り返し出てくる言葉や場所などは記録に残し、困難な場合は家族情報なども参考に職員間で検討し、本人本位になるよう努めている。「痛い痛い」との発言から何度も診察を行うが異常はなく、職員間で話し合い、トイレに行きたいのではとの仮説に至り、以後は痛いの発言でトイレに誘導し本人も納得している事例もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族よりお伺いし、生活歴等の把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を把握し、その日に合った過ごし方で生活して頂いている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族と話し合う機会を作り、本人に合ったケアプランを作成している。	毎月フロア全職員参加のフロアーカンファレンスを開催し、担当職員(月ごと持ち回り)による個別記録や体調変化をもとに新たな気づきや課題を見つけ、短期目標の進捗確認、モニタリングを経て、見直しにつなげている。家族来訪時や日頃の電話連絡などから得られた家族の要望も反映させ、現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添ったケアを行い、日々記録をしている。共有したい情報は、細かく記入し今後の見直しに繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化が生じた場合、職員で話し合い速やかに対策出来たケアが行える様心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人に合った地域活動や、外出に参加して頂いている。現在は、コロナ禍により、自粛している。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の希望のかかりつけ医に受診をすることが出来ている。	隣接の同法人クリニックでの2回/月の健診(職員同行)や1回/月の看護師の訪問健康観察があるなどの安心から、殆どの利用者が契約時にかかりつけ医を同クリニックへ変更している。2名は契約前のかかりつけ医を継続受診者している。訪問歯科の受診者も15名いる。他科受診は原則家族対応をお願いしているが、家族の高齢化や県外在住などで対応出来ない場合は職員が同行する場合もある。いずれも受診情報は電話や家族訪問時に口頭で行い共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師に、体調の変化等を伝え、適切に対応して頂く事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、病院にて、情報交換をしている。現在はいない。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアについては、職員とご家族とで話し合いをし、理解して頂いたうえでケアを行っている。	看取り加算を取得し、契約時に看取り指針に基づき説明し、書面にて本人、家族の意向確認を行っている。更に症状に応じて主治医から指示があった際にも、本人、家族と繰り返し話し合い意向の再確認を行い、本人、家族に寄り添った支援に努めている。最近では3名(老衰)の看取りを行っている。職員研修を予定していたがコロナ禍の為延期している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会などで、緊急時の対応について、確認をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的にし、避難経路の確認も出来ている。	今年3月に2回(25日、31日)消火、通報、避難誘導訓練を実施した。いずれも消防署の立ち合いはなし。3ユニットとで2～4階が居住区であり、避難誘導を優先して訓練を実施しており、職員を利用者の代役にして非常階段の踊り場まで毛布、車椅子での誘導方法を確認している。また、歩行可能な利用者を職員2人の付き添いで非常階段を使っての避難を試したが、相当な時間を要し現実的でない事が課題となっている。さらに殆どの利用者が避難の必要性を認識出来ず、誘導に従って行動できないのが課題となっている。協力の意向が得られている近隣住民の連絡先の選定を進めようとしている。	避難経路の一つとしていた建物南側に住宅が建ち避難経路が限られており、早期に消防署に相談して経路確保及び各階ごとの避難誘導場所の見直しや誘導手段のアドバイスを得ることに期待します。更にアドバイスに基づいた繰り返しの訓練の実施で臨機応変に適切な避難誘導が出来る事にも期待します。併せて脱出後の見守りについての近隣住民への協力依頼にも期待します。

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	訪室やトイレ誘導など、本人が傷つかないよう、心のこもった声掛けをしている。	理念でもある家族同様に接するの実践として、寄り添って目線を合わせ、喋るリズムに合わせての傾きや相槌で受容の姿勢(傾聴)を徹底している。呼びかけは、姓にさん付けを原則としているが利用者によっては慣れ親しみ反応の良い名前の場合もある。トイレ誘導時や入浴の声掛けは小声で行ったり、場所を変えるなどプライバシーにも配慮している。また、利用者間の確執にも職員がさり気なく間に入り双方が傷つかないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	着る服を選んでもらったり、やりたい事を聞いたり察したり出来る声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の毎日のペースを優先し、望む場所で過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容は、本人と会話をしながら、希望通りになる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳、盛り付け、後片付けなど、出来る事をして頂いている。職員も一緒に交ざって楽しく召し上がって頂いている。	献立作成、食材調達、調理を職員が交代で担当し各フロアごとに内容充実と盛り付けや彩りにも工夫を凝らし、食べる楽しみに繋げている。お粥やあら刻み、柔らか煮込みなど利用者の状態に合わせて食べ易いように配慮している。職員は介助したり見守りながら同じテーブルで同じ物を食している。配膳、下膳、テーブル拭きなど、利用者の出来る事は自発的活動の生活行為に繋げている。全館交流のランチやお茶会は好評であるが、コロナ禍で現在は各フロアごとに工夫して屋上庭園で手づくり弁当を楽しむなどしている。外食は控えているが、宅配ピザやテイクアウトの寿司などで食に変化を付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形態は、その人に合ったものを提供している。水分は、好きな飲み物も提供するなど、不足しない様気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、声掛けをし、必要なら支援をし、本人に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を把握し、早めの声掛けにて、失敗に削減に繋げている。	自立している利用者も7名いるが、他の利用者は原則排泄パターンを把握し早めの時間誘導を心がけ、失敗の減少に繋がる支援をしている。表情や立ち上がるなどの意思表示からも察知し、さり気なく声掛けし、見守りや誘導もしている。ADLの低下で座位が保持で出来ず昼夜おむつ対応者2名。夜間は睡眠を優先しているが4回の巡視時に起きてきたら見守りや誘導したり、中には定時でのパッド交換が必要な利用者もいる。夜間帯は大容量の吸収リハパンにすることでリネンの取り替えや更衣回数を減らせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を含む食材やヨーグルト、水分の提供をしている。また、便秘体操も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調にも考慮し、本人の希望の時間で入浴出来る様調整をしている。	入浴は2回/週を原則にし、時間帯は午前2時間、午後3時間の間で当日の気分や体調を見ながら声掛けしているが、利用者の希望を優先している。脱衣を嫌がる人もいるが丁寧な対応で入浴に繋げている。ADLの低下で浴槽に入れない人にはシャワー浴で清潔保持に努めている。要望があれば同性介助にも応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の望む時間帯で休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、毎回飲み込みまで確認出来る。薬の変更時は、職員全員に連絡徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の出来る家事活動をして頂いている。歌の時間なども行き気分転換に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や、家族との外出もお願いしている。現在は、コロナ禍外出は自粛している。	季節の花や行事見物にドライブを兼ねて出かけている。日常的には近所の公園への散歩や職員と一緒に食材の買い出しを兼ねて日用品の買い出しに行く人、職員同行で美容院にカットに出かける人など一人ひとりのADLを考慮して外出支援している。現在はコロナ禍で外出頻度は減り、屋上庭園での外気浴が多くなっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (3階ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていないと不安な方は、お財布を持って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話で話をしたり、手紙が来れば、お渡しをし、笑顔が見られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間では、温度や湿度に配慮している。	各フロア共に同一の造りであり、建具や床の間など全体に和風のイメージを基調に、装飾品も少なめに落ち着いた空間を演出している。季節に合わせた玄関の飾りや食堂の窓、トイレ内にも千代紙で花びらを貼ったりして季節を感じられるようにしている。食堂、居間、廊下、共に広く車椅子や歩行器などの動線にも支障なく、清掃も行き届いている。時間決めでの窓開放による換気の実施や加湿器(3台)の設置も行い感染症対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は、気の合った者同士にしている。最近では、居室で楽しく談話される姿もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた布団などを使用したりしながら、安心して過ごして頂いている。	居室は全室洋間で11㎡と広く、洗面台、エアコンなどが設置されている。寝具やタンス、椅子、小テーブルなどの使い慣れた家具に加えテレビ、ラジオ、家族の写真や位牌などを持ち込み各々が自分らしい部屋作りをしている。職員は昼食の時間帯に窓を開放したり、週に一度声掛けして納得の上で衣類の整理整頓や掃除を行い、出来る人は手伝っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、居室の表札やのれんの色分けなど、分かりやすくしている。		